

2024 年度

# 事業計画書

自 2024 年 4 月 1 日

至 2025 年 3 月 31 日

公益財団法人科学技術広報財団

はじめに

公益財団法人科学技術広報財団（以下「財団」という）は1973年（昭和48年）に「科学技術に関する広報啓発を行い、もって我国の科学技術の振興に寄与する」ことを目的に設立され、設立以来の目的を変えずに今日に至るまで幅広い活動を続けてきた。2012年（平成24年）11月には公益財団法人に移行し、2024年度は設立より51年、移行より12年目の運営・事業を迎える。

2024年度の事業の実施にあたっては、時代の変化に対応して、広範な科学技術への関心や興味喚起及び科学知識の理解増進のため、科学技術に関する情報を広く一般社会に発信し科学知識を普及すること、また、科学技術広報に関わる人材の育成を行うなど、科学技術に関する幅広い広報活動を進める。

最低賃金の上昇、光熱水費の高騰もあり、財政的に厳しい状況が続く見通しである。今後も経費の節減を図り収支の改善に努めるとともに、収益につながる新しい事業の機会を模索するなど、長期的に安定した経営基盤の確立を目指す。

## I. 全体運営

### （1）理事会の開催

通常理事会を6月及び3月に開催する。必要に応じて臨時理事会を開催する。

### （2）評議員会の開催

定時評議員会を6月に開催する。必要に応じて臨時評議員会を開催する。

### （3）企画委員会

財団の新規事業企画及び推進のため、外部の専門家による委員会を開催する。

### （4）広報活動

最新の科学技術に関するトピックスを提供するほか、科学技術に関わる法人・団体とのネットワークを充実させ、ホームページなどを通じ財団活動の広報の充実を図る。

## II. 事業

### (1) 科学技術広報に関する刊行物等の編集及び頒布

文部科学省が毎年作成する科学ポスター「一家に一枚シリーズ」を複製し有料頒布を行う。併せて財団が企画・制作した科学ポスターの有料頒布も行う。有料頒布にあたっては、広く一般に提供が可能となるよう EC サイト、特に Amazon での販売を強化する一方、科学館、大学生協、書店、教材卸等の委託販売先に対しては、取り扱い品目の拡大を図る。また、中学校、高等学校を中心に教育機関等への販売促進活動を積極的に行う。

### (2) 科学技術に関する広報啓発並びに人材の育成

科学館など教育文化施設の運営及び運営支援を行うことにより、科学知識の普及啓発並びに科学技術広報に関わる人材の育成に貢献する。科学技術に関する展示コンテンツの企画・開発を行い、提供・巡回することにより、広く一般への科学技術への関心や興味喚起及び科学知識の理解増進に寄与する。

#### (2) - 1. 科学館の運営及び運営連携

①新潟県立自然科学館の指定管理者（民間事業者との共同事業）として、令和 2 年 4 月 1 日より令和 9 年 3 月 31 日まで 7 年間の管理・運営を受託。

常設展示においては情報更新などにより新鮮さや魅力の向上を図りながら運用を行う。また、利用者の自然科学に対する理解増進や興味喚起を誘発するために、サイエンスコミュニケーションを主体とした活動を推進するとともに、人材の育成に努める。令和 6 年 5 月頃（予定）より、屋外展示場にスマート農業をテーマとした新規展示を導入し、それらを活用した体験学習プログラムを展開する。

②ふなばし三番瀬海浜公園・ふなばし三番瀬環境学習館の指定管理者（公益財団法人との共同事業）として、令和 4 年 4 月 1 日より令和 9 年 3 月 31 日まで 5 年間の管理・運営を受託。

三番瀬の自然環境への理解を深める場所としての環境学習館の役割を果たすため、環境学習プログラムの実施と特別展・ワークショップ、アウトリーチの企画・実施などを通して、利用者の増加に努め、学校教育での利用の拡大を図る。具体的な実施内容、回数は以下の通り。

- ・有料特別展：年 2 回（夏期、春期）
- ・無料企画展：年 2 回（潮干狩り時期、秋期）

- ・ワークショップ：年 150 回程度
- ・アウトリーチ：年 5 回程度
- ・学校団体等受入：年 65 団体程度

③運営面、企画面及び人材交流等により相互の連携・協力を促進する。

(2) - 2. 展示・映像コンテンツの企画・開発及び提供

①展示・映像コンテンツの提供

財団が所有する展示コンテンツ及びプラネタリウム映像「くじらが星に還る海」、「アイスワンダーランド」ほかのプロモートを推進する。

(3) 科学技術普及・利用に係る広報・支援及び施設・展示の企画・立案

①団体・企業の持つ科学技術の普及に係る商材の利用促進を目的とした広報活動支援を行う。

②科学館などの教育文化施設の施設・展示に関わる調査・企画・立案をして行う。

(4) 新たな事業等の取り組み、開発

財団関係者の豊富な知見を活かして、団体・企業と共同で財団の収益に貢献する新たな事業に取り組む。

(4) - 1. 新規事業の取り組み

①科学技術団体連合及び牧友会の事務局業務

サイエンスフォトコンテスト、科学技術者による講演・交流会、新年賀詞交換会等の開催、請求書の発行、ホームページ管理等科学技術団体連合及び牧友会の事務局業務を受託する。

②財団のノウハウを活かした巡回展示事業の開発

これまで財団が実施した企画展・特別展の中で評判の良かった「紙飛行機展」「さいきょう妖怪サバイバル」の展示をパッケージ化し、全国の科学館に販売して行くとともに新しい企画の開発にも取り組む。

(4) - 2. 外部資金、入札案件等への取り組み

①助成金の獲得

新技術振興渡辺記念会、東京応化科学技術振興財団、船の科学館他の公募案件に積極的に応募し、外部資金の獲得を目指す。

②入札案件の参加

官公庁、国立研究開発法人等の入札案件に、外部機関・企業等と共同しつつ積極的に参加する。

(4) - 3. 『子供の科学』との連携

株式会社誠文堂新光社が発行する『子供の科学』と連携し、科学ポスターの広報協力や科学関連商材の開発を目指す。併せて財団の知名度向上に寄与することも狙う。

Ⅲ. 管理機能

電子帳簿保存法およびインボイス制度への対応に合わせて、現在紙ベースで行なっている各種バックオフィス業務のデジタル化を進め、業務省力化およびコストダウンを図る。

以上